



グローバル展開の加速に向け 連結自己資本比率の算出を高度化

「北斎」をベースに規制資本比率算出システムを刷新

背景

事業のグローバル展開加速に向けて、金融機関に適用される国際的なフレームワーク「バーゼルII」に基づいた、より高度な連結自己資本比率算出を行う。市場変化を反映する「基礎的内部格付手法」を採用する。



野村ホールディングス株式会社
財務部
エグゼクティブ・ディレクター
宮岸 宏明氏



野村ホールディングス株式会社
財務部
アソシエイト
西田 悟士氏



野村ホールディングス株式会社
グループ・リスク・マネジメント・
プランニング部
企画課
バイス・プレジデント
長田 大祐氏



野村ホールディングス株式会社
グループ・リスク・マネジメント・
プランニング部
企画課
アソシエイト
榎 恵都子氏

ソリューション

基礎的内部格付手法では、きめ細かなデータを収集し、複雑な計算を行う必要がある。実績のあるパッケージソフトウェア「北斎」をベースにシステムを刷新し、高いシステム品質と短工期での稼働を実現する。

成果

新システムは計画通り稼働を開始。2011年3月期から基礎的内部格付手法による連結自己資本比率の開示を行っている。最短では日次と、非常にスピーディに、算出およびレポート出力が可能になった。

事業のグローバル展開加速へリスク管理の高度化を決断

世界の主要な金融・資本市場に幅広いサービスを提供する野村グループの持ち株会社である野村ホールディングス。旧リーマン・ブラザーズの海外事業などの継承を含む、さまざまな施策によって、グローバル展開を加速している。

同社はこれまで、グループの財務体質の健全性を示す指標である連結自己資本比率の算出に、多くの金融機関が採用する「標準的手法(SA)」を利用してきたが、グローバル化の一段の進展に伴って高度化を決断。市場の変化をより精密に反映する「基礎的内部格付手法(FIRB)」に基づく算出を目指した。証券会社はポートフォリオを柔軟に変化させるとともに、資産の日次時価評価が可能であることを踏まえ、最短では日次で連結自己資本比率の速報値を算出・レポートできる新システムを求めた。

実績のあるNSSOLの「北斎」をベースに新システムを構築

FIRBでは、自社で推計したデフォルト率を用いてリスクウェイトを算出するため、SAに比べると、きめ細かなデータを収集し、複雑な計算を行う必要がある。短工期であることを考慮して、野村ホールディングスは、バーゼルII対応システムの構築に多くの実績を持つ新日鉄ソリューションズをパートナーに選定。同社のパッケージソフトウェア「北斎」をベースに新システムを構築することにした。

「北斎」はスタンドアロンの製品だが、計算センターにシステム運用を集約しながら、世界各地の事業拠点におけるアクセスや分析を可能とするため、Webシステム化および英語対応を実施した。さらに、データの抽出、加工、書き出しに新日鉄ソリューションズのETLツールを用い、日次でデータを収集する仕組みを作っている。

グループのリスク管理を日次で実現、利用者の作業時間も短縮

新システムは計画通り稼働を開始した。2011年3月期から、基礎的内部格付手法による連結自己資本比率の開示をスタートしている。また、2011年9月には、旧システムで実行していたSAに基づく連結自己資本比率の算出機能を統合し、SAとFIRBを一体的に算出するシステムを実現した。

新システムに対する満足度は高い。新しい規制資本比率算出システムでは、グループの連結自己資本比率を計算するだけでなく、グループの組織ごとのリスク量といった情報を、日次/月次といったタイミングで、これまで以上にスピーディに出力できる。

今後は、そうして計算した、組織ごとのリスク量を活用して、リスク管理業務のさらなる高度化を図っていく。

Key to Success

野村ホールディングスが連結自己資本比率算出の高度化に取り組んだ背景は、グローバル展開の加速である。

財務部 エグゼクティブ・ディレクターの宮岸宏明氏は「野村グループでは、海外現地法人の設立や海外企業の買収も決して珍しいことではありません。これまで以上に効果的に、リスクを管理・開示するにはバーゼルII対応の高度化が不可欠でした」と語る。

同社は従来、多くの金融機関が採用する「標準的手法(SA)」に基づいて、連結自己資本比率を算出していた。

今回採用を決断した「基礎的内部格付手法(FIRB)」に基づく算出では、よりきめ細かなデータ収集や複雑な計算が必要になる。

グループ・リスク・マネジメント・プランニング部 企画課 バイス・プレジデントの長田大祐氏は「算出結果を組織別など、さまざまな切り口でブレイクダウンできるようにすることも不可欠でした。そのため、これまで以上に考え抜かれた新しいシステムを求めました」と振り返る。

新システムは2011年3月期における算出からの本格稼働を目指した。さらに、予備計算などの準備作業をシステムで適切に行う態勢を整える必要があった。

同社は新システムの構築パートナーに、新日鉄ソリューションズを選ぶ。

宮岸氏は選定理由を「短工期の開発に対応できるパッケージを持っている上、バーゼルIIに精通したエンジニアが多く、証券業特有の計算処理を実装するカスタマイズが可能なのが決め手でした」と語る。

2010年5月に始まった新システム構築プロジェクトは、三つのステップか

ら成る。

ステップ1では、手作業に近い形で整備していた算出処理をスタンドアロンの「北斎」で予備的に実現。ステップ2では、ステップ1と並行しながら「北斎」をベースにしたWebシステムを構築し、2011年3月期からの算出を行えるようにした。また、ステップ3では、旧システムで実行していたSAに基づく算出処理を、2011年9月期から新システムへ統合した。

短工期を踏まえ3ステップで構築 高い満足度のシステムが稼働

新日鉄ソリューションズは、各ステップを効率的に進めたという。

財務部 アソシエイトの西田悟士氏は、「エンジニアに技術的な質問を行うと、短時間で回答が戻ってきます。回

答内容も経験に裏付けされた説得力の高いものでした」と語る。

グループ・リスク・マネジメント・プランニング部 企画課 アソシエイトの榎恵都子氏は「課題が出ると、いつも複数の解決策を用意してくれました。当社はそれらの判断・選択に集中することができました」と述べる。

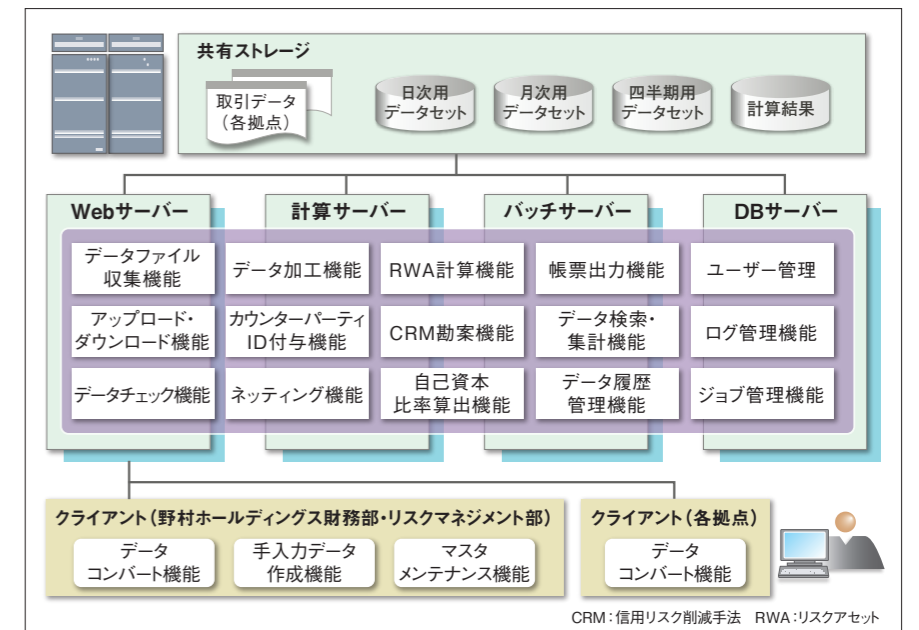
全面的に稼働した新システムの満足度は高い。

宮岸氏は「新システムではグループ全体の連結自己資本比率を計算するだけでなく、組織ごとのリスク量といった詳しい情報を、これまで以上にスピーディに出力できるようになっています」と語る。

国際的な金融機関に対する規制は、今後も高度化が進む見込みだ。

長田氏は「バーゼルIIIへの対応もすぐ必要になります。今回構築した新システムの経験をもとに、さらなる高度化を進めます」と語る。

野村ホールディングスが導入した規制資本算出システムの概要



コアテクノロジー

業界トップクラスの業務知識、Java

システム概要

●サーバー: 8台 ●アプリケーション: 北斎

NOMURA

野村ホールディングス株式会社
本社: 東京都中央区日本橋1-9-1
創業: 1925年
資本金: 5944億円(2011年3月31日現在)
収益: 連結1兆3854億円(2011年3月期)